

論文

「同情を含む談話」の研究

—日本人短大生と中国人日本語学習者のメールを比較して—

中村 純子・萩原 明子

An Analysis of Giving Condolences in Japanese:
A Comparison of E-mail Messages between Japanese Junior College Students and
Chinese Japanese Language Learners

NAKAMURA Junko and HAGIWARA Akiko

要 旨

人間関係に大きな影響を及ぼす「同情を含む談話」を取り上げ、日本人短大生と、中国人日本語学習者のメールにおける配慮表現、談話内容、およびその提示パターンを比較、分析し、特徴を記述した。分析の結果、日本人学生より中国人学生のメールほうが、字数が有意に多く、丁寧なメールを産出していた。その要因として中国人学生のメールの配慮表現の多さ、長さが挙げられた。また提示パターンも日本人学生が用件を先に表現するのに対し、中国人学生は配慮表現を先に表現していた。この提示パターンもメールの丁寧な印象に寄与していると考えられる。中国人母語話者のメールと比較すると、これらの特徴は母語干渉の可能性が示された。

キーワード

談話 同情 配慮表現 日本人短大生 中国人日本語学習者

目 次

- I. はじめに
- II. 先行研究
- III. 本研究の経緯と調査概要
- IV. 調査結果
- V. 考察
- VI. おわりに
- 謝辞
- 注
- 文献

I. はじめに

中上級レベルの日本語学習者の発話あるいは文章において最も問題になるのは、文法の誤りより日本的配慮を欠いた談話内容と表現である。対人関係を維持するのに重要な配慮に関わる言語表現およびその表し方は、高度に慣用化され、その言語共同体に特有のものになることが多い。したがって同じ場面においても、ある言語の字義通りの翻訳を別の言語で表した時に、適切な表現になるとは限らない。特定のコンテキストにおいて慣用的に使用される言語表現、談話内容およびその提示パターンは、その言語共同体で生活をしていれば、同様の場面に数多く接したり、社会儀礼を知識として学んだりすることで、身につけていくものであろう。そして、それらの慣用化された表現法を使用する限り、配慮を欠いた談話内容だと相手に認知されることはないが、異なるものを使用した場合は、何らかの語用論的推論¹⁾を導くものとなる。推論により発話、文章の真意が伝わることもあるが、誤解を招く可能性もある。そして、その誤解が人間関係に直接影響を及ぼすこともある。その言語共同体において適切と認知される談話内容の表現方法を学びつつある学習者の発話、文章に関して言語使用の面から問題点が指摘されるのはそのためである。

そこで、本論は、使用の仕方を誤れば人間関係に大きな影響を及ぼすと考えられる「同情を含む談話」を取り上げ、日本人短大生(以後、日本人学生と記す)と、中国人日本語学習者(以後、中国人学生と記す)の言語表現と談話内容、およびその提示パターンを比較、分析し、特徴を記述することを目的とする。「同情を含む談話」としたのは、談話はいくつかの言語行為を含んでいることがほとんどだからである。具体的にはメールの相手(教員)が不幸(身内の死)に遭い、突然約束のキャンセルを申し出たメールに対する日本人学生と中国人学生のメールを取り上げる。突然のキャンセルはキャンセルをされた側にとって負担の大きなものであるため、十分な理由が必要である。ここでは、身内の死をキャンセルに足る理由としたシナリオ(後述の調査①)に対する返答メールを分析する。

日々の生活の中で、死、病気、事故など不幸な出来事に遭遇することは避けられないことであるが、

何らかの用件で連絡を取らなければならない相手は不幸に見舞われた時に、相手の気持ちを慮りつつ、用件を伝えることは、第二言語話者のみならず母語話者にとっても難しい。特に、不幸(身内の死)を知らせるメールの返信において、談話内容、或いは表現に不適切なことがあると、人間関係に及ぼす影響は平時のメールのやりとり比べて大きいと思われる。不幸に見舞われた目上の人に対してメールを書くことは、特別な配慮(同情)が必要であり、その点において書き手に負担の大きなものである。

本論では、日本人学生と中国人学生が電子媒体を使ったロールプレイの中で、どのような形で同情を表したかに注目して、その言語表現と談話内容およびその提示パターンを母語干渉の視点を含め考察する。

なお、本研究で通信媒体としてメールを取り上げたのは、メールが社会生活において最も頻繁に使われるコミュニケーションの手段のひとつであり、大学内のコミュニケーションでは最もよく使用される媒体であるからである。

II. 先行研究

近年、日本語の談話レベルの研究が見られるようになってきた。しかし、そのほとんどは、依頼、断り、感謝、謝罪をテーマにした研究である。これらの言語行為が人間関係に及ぼす影響が大きいからだと思われる。本研究は、大学というコミュニティの中で教員という上の立場の者が、下の立場の学生との約束をキャンセルするという状況を取り上げた。これは、ポライトネス理論²⁾においては、学生の「積極的な」フェイスを侵害する行為であり、それに対する配慮のために教員の個人的理由を、本来共有すべき相手ではない学生と共有することになったという状況である。研究の対象は、学生の返答のメールであり、コミュニティメールの本来の目的を達成し、同時に、偶然知り得た教員の家庭的事情に対し、相手の心情に共感する「同情」を示すための言語使用の分析である。同情は発話行為論³⁾では、発話内行為の中の表出型に属し、話し手、書き手の心理状態を示すものとされる。ポライトネス理論の枠組みで考えると、相手の家族の不幸について言及することは、共感を示すことにより相手の「積極的」フェイスに働きか

ける反面、相手のプライバシーに立ち入るということで、「消極的」フェイスを侵害する非常に「危険」な行為となり得る。このように語用論的には複雑な特徴があるためか「同情」をテーマとしている研究は、現在においてあまり報告されていない。

「同情」は配慮表現の一つでもある。日本における配慮表現の研究を振り返ると、研究対象としての配慮はポライトネス理論が日本に紹介される過程で出現したという⁴⁾。ポライトネス理論は従来の敬語よりも広範な「ことばのポライトネス」全般を指す。配慮表現は2000年以降用いられる用語で、その定義も様々である。例えば、山岡(2010)⁵⁾は「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現」と幅広く定義していたが、後に山岡(2015)⁶⁾では、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定以上慣習化された言語表現」と定義し直している。本稿では、配慮表現の定義を山岡(2015)⁶⁾に従う。「同情」の意味は「他人の気持、特に苦悩を、自分のことのように親身(しんみ)になって共に感じること」であり、これを示すことは、対人関係を良好に保つことになるため、配慮表現の一つとして分析の対象とする。ただ、山岡(2019)⁴⁾でも述べられているように、慣習化の程度に関しては、いくつかの段階があり、完全に原義を失っているものもあれば、そうでないものも含まれる。本稿でも慣習化の程度に関しては緩くとらえていきたい。

日本語によるメールの言語を分析した先行研究はいくつか報告されている。談話レベルの研究の例をあげると、三宅(2014)⁷⁾は携帯メールを媒体として謝罪の受け手に注目し、日本語と英語での対照研究を試みた。寝坊を理由に遅刻することを謝罪するメールを受け取った被検者が、親疎の異なる相手に、どのようなメールを返すかを返信までの心的過程を含めて調査した。三宅(2014)⁷⁾は、謝罪の受け手の配慮行動をまず、謝罪の言語行動に関する評価(事態評価)の後、どのように返答すべきかを考え(表現態度)、返答(言語表現)をするというモデルをたてた。事態評価、および表現態度は表面に表われないため、アンケートによる意識調査を行っている。三宅(2014)⁷⁾は日本人は親疎の差と文体の差が「事態評価」と「表現態度」に影響をしているが、「言語表現」では、表

面上はそれが示されないと分析した。日本語母語話者は絵文字を少なくし、丁寧体、普通体を使い分けるなどして、怒りを示唆する傾向があった。また、疎の相手に対してはより怒りを感じていた。それに対して英語母語話者では、親疎の差が「事態評価」、「表現態度」、さらに「言語表現」に影響を与えていること、配慮の表現も多彩だが、一方で明らかに否定的な表現を用いるメールもあったことを記している。

沖(2015)⁸⁾は社会文化、意識態度、談話内容、談話表現の4層に注目する談話観に立ち、日本人と中国人の日本語のメールによる依頼談話の異なりに注目し、中国語母語話者の日本語に負の母語干渉が起きていることを明らかにした。

しかしながら、談話レベルの研究で、同情表現に焦点を当てたものは管見では見当たらない。同情を示さなければならない場面での同情の表し方に不適切なことがあると、人間関係に大きな影響をもたらす。そこで、萩原・中村は2016年より、同情を含む談話の研究をはじめた。

Ⅲ. 本研究の経緯と調査概要

1. 本研究の全容

本論は、一連の同情を含む談話の研究の一部である。ここではまず2016年からの同情を含む談話の研究の全容を説明し、その後、本論に使用したデータを概説する。

同情を含む談話の研究のために、まず、2016年、萩原・中村は、同情表現を使う必要が生じるメールを調査により収集した。日本人学生を対象に18のシナリオ、日本人教員対象に12のシナリオを作成した。オンラインの調査を使って、被検者に無作為に選んだ6つのシナリオにメールを書いてもらった。それぞれのシナリオは、キャンセルの理由が身内の死、怪我、火事のうちのひとつで、その不幸が起こった相手の親疎によって2つの深刻さのレベルがあるように設定した。学生から227、教員から165、合わせて370のデータが得られた。

続いて2018年から2021年の調査(表1参照)では、Hagiwara・Nakamura(2017)⁹⁾の研究で得られた日本語母語話者のメールの中で、典型的なメールと思われるものを選び、そのメールに対する返信のメー

ルを日本人学生と中国人学生に書いてもらい、その同情表現、談話内容、提示パターンを比較、分析した。以下の表1のように上下関係(先生と学生、先輩と後輩、同級生)を変数とし、さらに事態の深刻さ(身内の死、自身の骨折)を操作した8つのシナリオを用意した。人生の困難な状況を理由に約束のキャンセルを申し出たメールに対し、上下関係にある相手に対して、日本人学生、中国人学生はどう日本語で返信するのだろうか。

以下に調査概要を記す。調査①は日本人学生、②は中国人学生を対象に行った。各調査の詳細は以下である。

調査①

調査日時：2018年7月18日～7月25日、2019年7月、2020年12月

調査対象：松本大学松商短期大学部日本人学生105名

調査方法：メールを使ったロールプレイ手法を用いた。筆者が状況を解説した後、日本人学生を4つのグループに分け、2つの状況(状況1、状況2)に合わせメールを作成してもらい^{註1}、そのメールを筆者に送信してもらった^{註2}。メールの詳細は表1である。状況1、状況2の人数が異なるのは、どちらかひとつしか返信をよこさなかったり、質問の意図を誤解したりした学生がいたからである。

調査②

調査日時：2018年3月18日～3月23日、2019年5月

調査対象：・嶺南師範学院日本語学科3年生(日

本語能力中級～上級)38名

・松本大学への交換留学生かつ嶺南師範学院日本語学科2年～3年(日本語能力中級～上級)5名

調査方法：メールを使ったロールプレイ手法を用いた。筆者が中国嶺南師範学院に赴き、調査方法、状況を解説した後、中国人学生を4つのグループに分け、2つの状況(状況1、状況2)に合わせ、日本語でメールを作成してもらい、そのメールを筆者に送信してもらった。表2が得られたデータの詳細である。さらに、2019年5月に交換留学で嶺南師範学院から松本大学来ている学生5名からもデータを得た。(コードCG1S1、CG1S2に2名およびコードG4S1、G4S2に3名)

2. 本論における研究対象データ

本論では、大学の教員と学生間でのやりとりを表した、表1、表2の網掛けの部分「G1状況1」のシナリオのみを研究の対象とした。大学の教員は、大学生にとって身近な存在ではあるが、目上に当たり、個人的な関係性の面では一般的に友人や先輩よりも距離感がある。大学生にとって教員との面談の約束は、成績と直結しているため重要度は高く、教員の側からも面談の約束をキャンセルすることには相当な理由が必要である。このシナリオ(表1と表2の網掛けの部分、JG1S1(G1状況1)およびCG1S1(G1状況1))では、母の死のために面談日の変更のメールを送ってきた相手は指導教員(目上)、受け取ったのは学生

表1 調査①で得られたデータの概要

コード	グループ/状況	メールの相手	キャンセル事項	キャンセル理由	件数
JG1S1	G1状況1	指導教員(目上)	卒業論文の面談日	教員の母の死	29
JG1S2	G1状況2	大学の後輩(目下)	グループワーク	後輩の骨折	25
JG2S1	G2状況1	指導教員(目上)	卒業論文の面談日	教員の骨折	26
JG2S2	G2状況2	大学の後輩(目下)	グループワーク	後輩の祖母の死	23
JG3S1	G3状況1	大学の同級生(同等)	グループワーク	同級生の祖母の死	29
JG3S2	G3状況2	大学の先輩(目上)	グループワーク	先輩の骨折	29
JG4S1	G4状況1	大学の先輩(目上)	グループワーク	先輩の祖母の死	23
JG2S2	G4状況2	大学の同級生(同等)	グループワーク	同級生の骨折	26

コードの意味：J(日本人学生) G(グループ) S(状況)

(目下)である。キャンセル事項は卒業論文の面談日、キャンセルの理由は指導教員の母の死(実際のシナリオは下記参照)である。このシナリオでの被検者は中国人学生12名、日本人学生29名だった。被検者はメールを受け取った学生の立場になって、返答のメールを筆者に送信した。得られた資料はデータベースのソフトFileMaker Proを使用し分類した。初めにメールの文面を入力した後、メールの内容を開始部、命題部、同情部、収束部に分類し、さらに意味公式を抽出し分類した。得られたデータは定量的に分析した後定性的分析を加えた。

IV. 調査結果

1. 得られたメール例と情報の分類

調査の結果、以下のようなメールを日本人学生(29名)と中国人学生(12名)から得られた。両者のメールを比較すると、中国人学生のメールの方が同情を多く表現しており、かつ丁寧な印象を受ける。その要因をメールの長さ、内容、意味公式の出現パターンについて探った。メールの長さは件名を除く本文全体の文字数、内容は各部の文字数を用いた。

2. 総文字数および各部の文字数の比較

1) 総文字数の比較

まず、両グループのメールを定量的に分析した。表3はメール全体の文字数の平均を示したものである。日本人学生の方が中国人学生よりメールの文字数が有意に少なかった。日本人学生グループと中国人学生のグループ間の文字数の差の検定はノンパラ

表2 調査②で得られたデータの概要

コード	グループ/状況	メールの相手	キャンセル事項	キャンセル理由	件数
CG1S1	G1状況1	指導教員(目上)	卒業論文の面談日	教員の母の死	12
CG1S2	G1状況2	大学の同級生(同等)	グループワーク	同級生の骨折	12
CG2S1	G2状況1	指導教員(目上)	卒業論文の面談日	教員の骨折	12
CG2S2	G2状況2	大学の後輩(目下)	グループワーク	後輩の祖母の死	12
CG3S1	G3状況1	大学の同級生(同等)	グループワーク	同級生の祖母の死	7
CG3S2	G3状況2	大学の先輩(目上)	グループワーク	先輩の骨折	7
CG4S1	G4状況1	大学の先輩(目上)	グループワーク	先輩の祖母の死	12
CG2S2	G4状況2	大学の後輩(目下)	グループワーク	後輩の骨折	11

コードの意味：C(中国人日本語学習者) G(グループ) S(状況)

【JG1S1(G1状況1)、CG1S1(G1状況1)のシナリオ】

あなたは佐藤薫(さとうかおる)という名前の大学生です。山田晴子(やまだはるこ)先生から、以下のメールが来ました。あなたが、佐藤さんだったら、どんな返信を書きますか。佐藤さんになって、山田晴子先生に返信を送ってください。先生のメールアドレスは〇〇〇です。

【受け取ったメール】

件名：	面談日変更について
本文：	佐藤さん
	山田です。卒業論文の進み具合はどうでしょうか。 急なことなのですが、明日の面談を延期させてください。実は、今朝母が亡くなりまして都合がつかなくなったのです。 改めて面談日を決めます。近日中にはお知らせいたしますので、よろしく願います。

メトリックのマン・ホイットニーU検定を用いた。

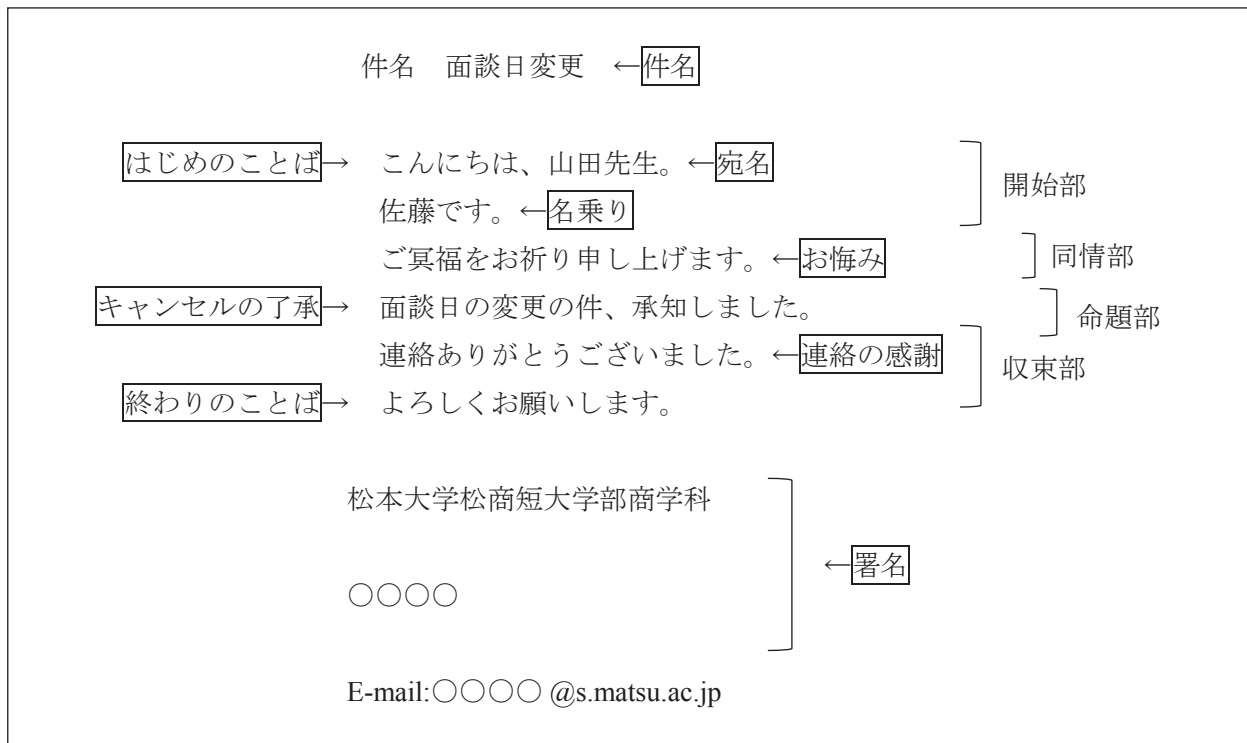
2)4つの部の比較

メール全体の文字数の違いの要因をさぐるために、メールを開始部、同情部、命題部、収束部の4つに分類した。開始部は、相手への呼びかけ、名乗り、挨拶、に関する表現を全て含み、同情部には相手(教員)の状況に関わる全ての表現、命題部はメールの要件(論文に関する面談に関わる全ての表現)、収束

部はメールの終了を表す表現および署名が含まれる。分類の単位は文であり、両方の意味が含まれるものは、その文の中心となる意味を判定の基準にした。

命題部を除き、中国人学生のメールの文字数が、日本人学生のそれよりも倍以上多いことが分かった(表4参照)。特に、命題部を除く部分で日本人学生のデータに欠損値が多く(開始部4件、同情部10件、収束部24件)みられた。一方、中国人学生は収束部

【日本人学生返信例と意味公式】



【中国人学生返信例】

山田晴子先生
佐藤薫です。
ご愁傷さまでございます。お母様のことは、本当に残念でございます。
お悔み申し上げます。どうか、お体を大切になさってください。
なお、論文は一応完成しました。手直した後、先生のところに送信し、見ていただけたらでしょうか。
また、面談日が決めたら教えてください。ありがとうございます。

表3 両グループのメール本文の総字数

グループ	n	文字数の平均	S.D.	最高値	最低値
日本人学生	29	73.62	29.89	141	26
中国人学生	12	145.58	40.76	229	82

(検定統計量U = 25、検定統計量Z = 4.27、分散V = 34.9、p < .01)

に2件欠損値があったのみである。ここでの欠損値とは、メールの各部の情報がないことを指し、メールの開始に使われる呼びかけや名乗りをしなかった日本人の学生が4名、教員の個人的な事情(ここでは身内の不幸)に関し、メールで言及しなかった日本人学生が10名、メールの最後の結語を入れなかった日本人学生が24名、中国人学生が4名いたことを指している。表5は欠損値を省いたメール本文の字数の平均値である。欠損値を省いたデータの文字数でも中国人学生の日本語で書かれたメールの方が日本人学生のものよりも長い。とりわけ同情部と収束部に関しては日本人学生の方に欠損値の数が多く、文字数の差も大きいことが明らかになった。

3. 意味公式による分析

1) 意味公式による分類

メールの各部の内容を比較するために、意味公式を用いて、どのような事柄が各部分に含まれているか分析した。意味公式の分類方法は、ザトラウスキー(1993)¹⁰⁾、カムトーンティップ(2015)¹¹⁾、Hagiwara・Nakamura(2017)⁹⁾を参考に、本論の対象のシナリオに合わせた(表6参照)。

表7はそれぞれの意味公式がメール本文のどの部

分に含まれるかを表したものである。各部分に複数の意味公式が含まれる。ただし、今回の分類では、意味公式に含まれるものが「件名」の部分に含まれる場合は、分類の対象にせず、本文の中にあるものを全てを分析の対象とした。次節以降、同情部、命題部、収束部の順に使用されている意味公式から学生間の違いを明らかにしたい。

2) 開始部

メールの開始部には、一般的に、メールの宛名、書き手を示す名乗り、挨拶のことば、メールの返事であれば、連絡への感謝などが書かれる。今回のデータを分析したところ、表8のように全ての中国人学生が宛名、名乗りを行っていた一方、日本人学生では、宛名を書いたのは、件名に宛名を入れたメールを含め29名のうち16名、名乗りを入れたのは22名だった。はじめの挨拶、連絡の感謝に関しては、数の上ではあまり差がないが、初めの挨拶の代わりにお悔やみの表現(同情部に分類)を述べている学生が多くいたため、一般的な「こんにちは」、「こんばんは」などの挨拶ことばが入らなかったと思われる。

3) 同情部

次に同情部における意味公式の使用状況をみてみたい(表9参照)。本文の文字数の上では最も大きな違いが見られたのが同情部である。同情部は「お悔

表4 両グループのメール本文各部の字数の平均と検定結果

	グループ(n)	平均語数	S.D.	検定統計量U, 検定統計量Z, 分散V, 両側検定
開始部	中国人学生(12)	28.42	18.88	U = 88.5, Z = 2.45, V = 34.9, p = 0.0143(p < .05)
	日本人学生(29)	14.10	10.46	
同情部	中国人学生(12)	42.92	27.43	U = 60.5, Z = 3.25, V = 34.9, p = 0.0011(p < .01)
	日本人学生(29)	15.72	17.35	
命題部	中国人学生(12)	52.83	20.12	U1 = 13, Z = 1.75, V = 34.9, p = 0.0801(ns)
	日本人学生(29)	40.00	17.29	
収束部	中国人学生(12)	18.08	12.67	U = 48, Z = 3.61, V = 34.9, = 0.0003(p < .001)
	日本人学生(29)	2.55	5.89	

マン・ホイットニーU検定(U = 検定統計量, Z = 検定統計量, V = 分散)

表5 両グループのメール各部の欠損値を省いた字数の平均

グループ(n)	開始部	同情部	命題部	収束部
日本人学生(29)	16.4	24.0	40.0	14.8
中国人学生(12)	28.4	42.9	52.8	21.7

み表現」、「相手の心身への気遣い」、「助力の申し出」が含まれる。まず、意味公式の分布だが、「お悔やみ表現」は中国人の学生の全てが使用していた。一方、日本人学生では29名中19名にとどまった。お悔やみ

表現を使用しなかった学生10名は他の意味公式を使わなかったため、同情部のないメール(表5の欠損値)を書いたことになる。中国人学生の半数が不幸に見舞われた教員の心身への気遣いの表現を使用した。

表6 意味公式の定義と例

意味公式	定義	例
宛名	相手の名前	△△先生
名乗り	開始部分の自分の名前	○○です
はじめのことば	最初のあいさつ表現	こんにちは
連絡の感謝	連絡に対する感謝表現	メール、ありがとうございます
お悔やみ表現	定型、非定型のお悔やみ表現	ご尊母様ご逝去のこと心よりお悔やみ申し上げます この悲しいことを聞いて残念です
心身への気遣い	相手の体、心情への気遣い	どうか気を落とさず、お身体に気をつけてください
助力の申し出	相手への助力の申し出	もしなんかお役に立てるところがあれば、是非ご連絡してください
キャンセルの了承	キャンセルの了承の明確な表現	面談日変更の件了解いたしました
質問に対する応答	論文の進捗に関わる応答	卒業論文は順調です
改めての約束	今後の面談予定に関する事柄	連絡お待ちしております
終わりのことば	終わりのあいさつ	よろしくお祈いします
署名	終了部の自分の名前	△△

表7 本文各部に含まれる意味公式

本文の各部	意味公式	数(計12)
開始部	宛名、名乗り、はじめのことば、連絡の感謝	4
同情部	お悔やみ表現、相手の心身への気遣い、助力の申し出	3
命題部	キャンセルの了承、質問に対する応答、改めての約束	3
収束部	終わりのことば、署名	2

表8 開始部における意味公式の有無 (人数)

意味公式	中国人学生(12)	日本人学生(29)
宛名	12(100.0%)	16(55.2%)
名乗り	12(100.0%)	22(75.9%)
はじめのことば	5(41.7%)	14(48.3%)
連絡の感謝	3(25.0%)	7(24.1%)

表9 同情部における意味公式の有無 (人数)

意味公式	中国人学生(12)	日本人学生(29)
お悔やみ表現	12(100.0%)	19(65.5%)
心身への気遣い	6(50.0%)	2(6.9%)
助力の申し出	1(8.3%)	0(0%)

一方、日本人学生は、2名のみが何らかの形で心身への気遣いを表現していた。

日本語ではお悔やみの定形表現は、「お悔やみを申し上げます」などの「お悔やみ」ということばを含んだ「お悔やみ形」と「ご愁傷様です」などの「ご愁傷様形」、さらに「ご冥福を祈ります」のような「ご冥福形」の3つである。データにはそのほかに「残念です」という表現を含む「残念形」と複数のお悔やみ表現を重ねて使っている「複合形」があり、それらを分類したのが表10である。お悔みの表現はお悔みの表現(定型、不定型)が複数用いられている複合形と、お悔み形、ご愁傷様形、ご冥福形の4つに分類した。

日本人学生のうち10名が弔意を記さなかった。最も多く用いられた表現形は日本人学生は「お悔やみ形」であり、中国人学生は「複合形」であった。少数だが、日本人学生のなかには「ご冥福形」を使用した学生がおり、中国人学生の中には「残念形」を使用した学生がいた(図1参照)。

「同情部」において中国人学生の方が文字数が多かったことと、日本人学生の中に弔意を表さなかった学生が多くいたことが同情部の平均文字数の差につながったと思われる。お悔やみ表現の選択においては、日本人学生が3つの定形表現を使い分けて短く弔意を表していたのと比べ、中国人学生は概して長い文を使用し、複数のお悔やみ表現を駆使し、さらに遺族への心身への気遣いをも含め、盛大に弔意を表していた点に大きな違いがあった。

以下が具体的な複合形のお悔み表現である。

【お悔み表現複合形】

JG1S1=日本人学生、CG1S1=中国人学生。下線部はお悔やみ形、二重下線部は心身への気遣い、()は助力の申し出。中国語の簡体字を使用していたものは、日本の漢字に変換して記した。

(JG1S1-16) このたびは突然のことで、心よりお悔やみを申し上げます。先生も無理なさらず、落ち着かれましたらご連絡ください。謹

表10 同情部におけるお悔やみの表現

学生(n)	複合形	お悔み形*	ご愁傷様形*	ご冥福形*	残念形*	なし
日本人学生(29)	4 (13.8%)	10 (34.5%)	3 (10.3%)	2 (6.9%)	0 (0%)	10 (34.5%)
中国人学生(12)	6 (50.0%)	0 (0%)	4 (33.3%)	0 (0%)	2 (16.7%)	0 (0%)

*複合形に分類されたものは含まない。

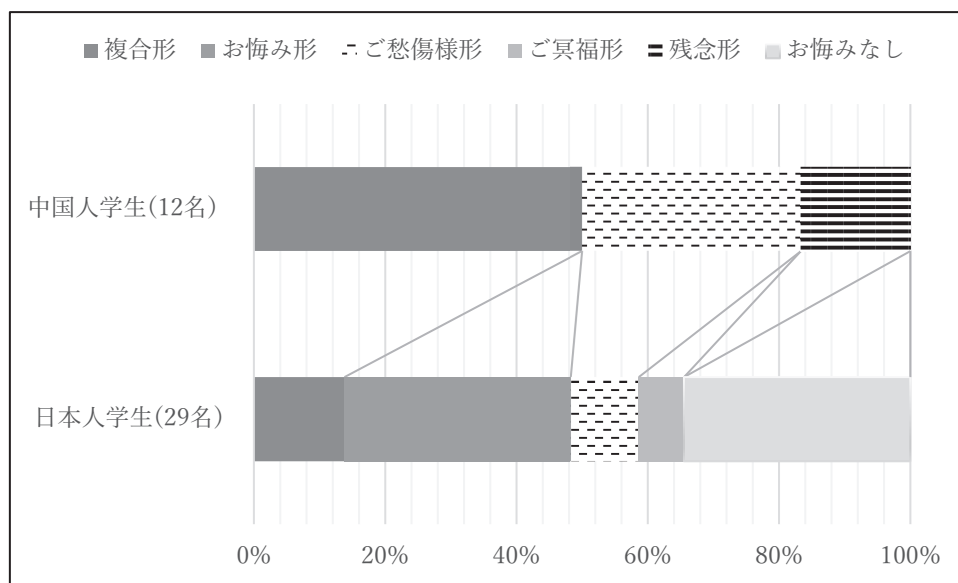


図1. 同情部におけるお悔やみの表現

んでご冥福をお祈り申し上げます。

- (JG1S1-25) この度はお母様のご逝去の報に接し、心からお悔やみ申し上げます。(どうか気を落とさず、お身体に気をつけてください。)安らかなご永眠をお祈りいたします。
- (JG1S1-29) そうだったんですね、どうぞお力落としないように。心からお悔やみ申し上げます。
- (JG1S1-27) この度は突然のことで茫然としております。ご母堂様のご逝去を悼み、心よりお悔やみ申し上げます。
- (CG1S1-1) ご尊母様ご逝去のことを心よりお悔み申し上げます。ご冥福をお祈りします。
- (CG1S1-4) お母様が永眠された由、ここに謹んでご哀悼の意を表するとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。(もしなんかお役に立てるところがあれば、是非ご連絡してください。)
- (CG1S1-7) ご愁傷さまでございます。お母様のことは、本当に残念でございます。お悔み申し上げます。(どうか、お体を大切になさってください。)
- (CG1S1-5) お母様のことは、本当に残念でございます。心からお悔やみ申し上げます。
- (CG1S1-6) 先生のメールをいただきましたから、お母さんのことを聞いて、驚いております。誠に残念でなりません。このたび、どうもご愁傷さまでございます。
- (CG1S1-11) お母さんのことですが、お悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈りしたいと存じます。

「残念形」は、日本人学生は一人も使用していなかった。教員と学生間では、教員の母親を学生が個人的に知っている関係ではないと考えられるため、書き手が残念に思う状況ではない。よって、この文脈においては相応しくない表現であるが、中国人学生のうち、複合形」の3名および単独で2名が使用していた。

同情部における「心身の気遣い」は、お悔み表現とともに用いられるものもあれば、お悔み表現とは離れて結語として表されていたものもあった。この「心身の気遣い」も【心身の気遣い表現】のように日本人学生7%、中国人学生42%で、中国人学生の使

用している割合が多い。

【心身への気遣い表現】

JG1S1=日本人学生、CG1S1=中国人学生。下線部=気遣いの表現。中国語の簡体字を使用していたものは、日本の漢字に変換して記した。

- (JG1S1-28) 面談日は落ち着いてからで大丈夫ですので、気を落とさず、お身体に気をつけてください。(命題部の一部)
- (CG1S1-4) ご返事はいつでも構いませんが、何よりお身体を大事にして、くれぐれもお身体にはご自愛くださいませ。(命題部の一部)(結語として)
- (CG1S1-6) どうか悲しみのあまり、お体を損なわれませんように、お力落とされなくさない。(結語として)
- (CG1S1-7) どうか、お体を大切になさってください。
- (CG1S1-8) お大事に、これからもよろしく願います。(結語として)
- (CG1S1-10) くれぐれもお体をお大事に。
- (CG1S1-12) 先生はゆっくり休んでください。

4) 命題部

命題部は、メールの主たる目的に関する部分で、両グループとも文字数が最も多かった。文字数において統計的有意差は生じなかったが、含まれる意味公式において日中で著しい違いがみられた。命題部には「相手の質問に対する応答(論文の進み具合)」、「キャンセルの了承」、「次回への約束」が含まれる。

最も違いの見られる意味公式として、「キャンセルの了承」があげられる(表11および表現参照)。「面談延期の件、了解しました」のような表現を日本人学生は23名(79%)が使用していたが、中国人学生は2名(17%)しか使用していなかった。日本人学生はほぼ以下の5つの返答パターンで答えていたが、中国人学生の返答(CG1S1-5)、(CG1S1-6)には、語用論的には不適切な表現が含まれていた。「延期してもよろしい」という表現は、上の立場にある場合に使える表現であり、「面談の延期は構わない」というのも同様にこの状況では使用するのに相応しい表現ではない。これは語用言語学的なタイプのエラーである^{註3}。しかし、多くの中国人学生が「キャンセルの了承」の表現を使用していなかったのは、特筆すべき違いに属する。

【キャンセルの了承を示す表現】

JG1S1 = 日本人学生、CG1S1 = 中国人学生。下線部 = キャンセルの了承表現。中国語の簡体字を使用していたものは、日本の漢字に変換して記した。

- (JG1S1-1) 明日の出欠の件了解しました。
 (JG1S1-3) 面談の件ですが、承知いたしました。
 (JG1S1-5) 分かりました。
 (JG1S1-7) 面談の延期ですが、全然大丈夫です。
 (JG1S1-26) 了解です。

- (CG1S1-5) 少し改めるところがありますので、明日の面談を延期してもよろしいと思います。
 (CG1S1-6) 面談の延期はかまいませんが、論文も準備してきました。

直接的な「キャンセルの了承」表現を中国人学生は使用していなかったが、一方で「質問に対する応答」として、論文の進み具合について述べたり、次回の約束に言及したりするなどして、間接的にキャンセルの了解を伝えていた(表11参照)。半数の中国人学生は、論文の進み具合については、順調にしている旨を述べ、指導教員に論文の件を心配しないように一言加えたり、心配への感謝を言語化したりしていた(【中国人学生の面談キャンセルおよび質問に対する返答に含まれる教員への配慮表現】を参照)。

【中国人学生の面談キャンセルおよび質問に対する返答に含まれる教員への配慮表現】

CG1S1 = 中国人学生。下線部 = 配慮表現。中国語の簡体字を使用していたものは、日本の漢字に変換して記した。

- (CG1S1-1) ご心配なくて、面談日をお待ちします。
 (CG1S1-2) ご心配なさずに、論文は順調に書いております。
 (CG1S1-3) 論文は順調にすすみました。ご心配、ありがとうございます。
 (CG1S1-4) 論文は順調に進んでいます。どうぞ安心ください。

- (CG1S1-6) 面談の延期はかまいませんが、論文も準備してきました。先生のご心配に感謝します。

一方、日本人学生の場合、相手の「質問に対する応答(論文の進み具合)」に、心配への感謝の表現はないものが多い。その代わり「改めての約束」に、以下、【教員への配慮表現】のような教員への心遣いが記されているものがあった。

【教員への配慮表現】

JG1S1 = 日本人学生、CG1S1 = 中国人学生。下線部 = 配慮表現。中国語の簡体字を使用していたものは、日本の漢字に変換して記した。

- (JG1S1-3) 日程の調節は、無理をなさらず落ち着いたからで大丈夫です。
 (JG1S1-5) また都合の良い時に、連絡よろしくお願い致します。
 (JG1S1-12) 面談の日程は私はいつでも都合がつかますので無理をなさらないてください。
 (JG1S1-15) お母さまの件で大変だと思いますが、日程のお知らせよろしく願います。
 (JG1S1-16) 先生も無理なさらず、落ち着かれましたらご連絡ください。
 (JG1S1-22) 私はいつでも都合がつかますので、私のことは気にせずになさってください。
 (JG1S1-23) 大変な中、ご連絡ありがとうございます。面談日変更の件、承知いたしました。
 (JG1S1-25) 面談は先生のご都合が合うときがあれば教えていただきたいです。
 (JG1S1-28) 面談日は落ち着いたからで大丈夫ですので、気を落とさず、お身体に気をつけてください。
 (JG1S1-29) 面談の日程に関しましては、先生のご都合のつくときで大丈夫です。
 (CG1S1-12) 先生のご都合のいい時間に改めて面談をします。先生はゆっくり休んでください。

表11 命題部におけるおキャンセルの了承および質問に対する返答

学生(n)	キャンセルの了承	質問に対する返答	改めての約束
日本人学生(29)	23(79.3%)	17(58.6%)	19(65.5%)
中国人学生(12)	2(16.7%)	12(100.0%)	10(83.3%)

以上、命題部においては、文字数こそ有意な違いがなかったが、メールの相手の教員に対しての配慮の方法が、日本人学生と中国人学生の間で大きく異なることが示された。

5) 収束部による違い

収束部は、メールの最終部分であり、挨拶言葉や署名が含まれる。今回のメールでは、収束部分の意味公式は、同情部および命題部の一部が最後の挨拶文になっている例もあった。メール結語のパターンには表12の7種類がみられた。もっとも多かったのは「よろしくおねがいします。」で日本人学生も中国人学生も多く使用していた。特に中国人学生にその割合が多かった。そのほかに、先生の心身を心配する表現や、お悔やみ表現、および「連絡を待っています。」など複数のものを使い分けていた。日本人学生の選択した結語の方が種類が多かった。「よろしくおねがいします。」は、依頼の内容が直前に含まれていないと使用しにくい時があるので、たとえば、同情部が後に来た場合には、お悔やみの表現が選択されたということがあるのかもしれない。

6) 談話の出現パターン

同情部が先に表現されているか、命題部(論文に関すること)が先に表現されているかも、メールの印象を大きく左右する。さらに前項の結語表現の違いとも関連性があると考えられるため、その出現順序について調査をした。その結果、命題部を先、つまり用件を先に済ますのは日本人学生、先生への気配りが先に来るのは中国人学生という異なる傾向がみられた(表13参照)。この情報の提示順の違いも、

同情部の文字数の長さとともに、中国人学生の書くメールの方が、同情がよく表現されているという印象を受ける要因だと考えられる。

7) 意味公式サマリー

表14は今回分析したシナリオに出現した意味公式のサマリーである。

4. 中国語のデータ

日中の学生の日本語によるメールに現れた違いが学習者の母語に由来するものかどうかを調べるために中国人日本語学習者で、日本語がほとんど話せない初級の学生に中国語を使用して同様の調査を行った。以下は調査③の概要である。

調査③

調査日時：2019年3月20日～5月23日

調査対象：天卓日本語塾(日本語能力初級25名)

調査方法：調査方法は基本的に調査①、②と同様である。筆者が中国昆明市天卓日本語塾に赴き、状況を解説した後、天卓日本語塾の教員に被検者の中国人学生を4つのグループに分けてもらった。2つの状況(状況1、状況2)に合わせ、日本語、中国語の両方に堪能な教員にメール文を中国語で作成してもらい、後日メールの添付資料として送ってもらった。そのデータの詳細は表15である。そのメールの翻訳は嶺南師範学院の交換留学生、信州大

表12 メール結語の違い()内は%

(n)	よろしく	お悔やみ	ご自愛	連絡待ち	大丈夫	感謝	了解
日本人学生(29)	10(34.5)	6(20.7)	1(3.4)	4(13.8)	4(13.8)	0	2(6.9)
中国人学生(12)	8(66.7)	0	2(16.7)	0	0	1(8.3)	1(8.3)

(大丈夫はメールの書き手は自分が時間の変更に関して大丈夫だという意味。感謝は結語に「ありがとうございました。」が使われていた例を指す。)

表13 同情部と命題部のうちメールに先に表現されたもの

(n)	同情部	命題部	カイ二乗検定
日本人学生(29)	7	22	$\chi^2(1) = 7.214, p < .01$
中国人学生(12)	9	3	Phi = 0.419

学非常勤講師李丹丹氏に依頼した。本論では、表15の網掛けの部分のみ分析した。

中国語のメールの本文を本研究の意味公式に当てはめてみたところ表16の結果になった。まず、お悔やみ表現の有無だが、中国語のメールにおいても9割の学生は何らかの表現で弔意を表していた。助力の申し出やキャンセルの了承は中国語のデータでも少なかった。

中国語のデータでもお悔やみ表現は複数の意味を組み合わせて長かった。下記のように「节哀顺变」または「节哀」を使用している学生が多く、これが中国でのお悔み表現に相当する。「节哀顺变」は、「悲しみを抑えて出来事を受け入れる」という意味で、対人で使用すれば、「悲しみを抑えて出来事を受け

入れることを願っている」という意味になる。「很抱歉」は「大変残念に思う」という意味で、この表現の使用も多く、これが中国人学生のメールにおいて残念形を5名が使用していた理由だと思われる。メールで弔意を表す場合、この2つを共に使用することはごく自然だという。実際、このような定型文を重ねて使用している学生は7名いた。その他、非定型文により共感を示した(KG1S1-3)「能够理解您现在的心情(先生のお気持ちはとてもわかります。)」なども見られた。さらに中国人学生の日本語のメールと同様、身体への気遣いもお悔やみの言葉と共に起していた。日本人のメールには一切登場しない死を一般化した慰めの表現(KG1S1-5、6、7)が見られたのが極めて特徴的だが、これも定型のお悔み表現「节

表14 中国人日本語学習者(12名)と日本人学生(29名)の意味公式の使用率

意味公式	中国人学生使用人数(使用率)		日本人学生使用人数(使用率)	
件名	12	(100.0%)	26	(92.9%)
宛名	12	(100.0%)	15*	(68.2%)
名乗り	12	(100.0%)	21*	(72.4%)
はじめのことば	5	(41.7%)	14	(48.3%)
連絡の感謝	3	(25.0%)	6*	(20.7%)
お悔やみ表現	12	(100.0%)	19	(65.5%)
心身への気遣い	6	(50.0%)	2	(6.9%)
助力の申し出	1	(8.3%)	0	(0%)
キャンセルの了承	2	(16.7%)	23	(88.5%)
質問に対する応答	12	(100.0%)	17	(58.6%)
改めての約束	10	(83.3%)	19	(65.5%)
署名	8	(66.7%)	13	(44.8%)

*件名に含まれていたものを除く。収束部の意味公式は他の部分のものと重なるので省いてある。

表15 調査③で得られたデータの概要

コード	グループ/状況	メールの相手	キャンセル事項	キャンセル理由	件数
KG1S1	G1状況1	指導教員(目上)	卒業論文の面談日	母の死	10
KG1S2	G1状況2	大学の同級生(同等)	グループワーク	骨折	10
KG2S1	G2状況1	指導教員(目上)	卒業論文の面談日	骨折	6
KG2S2	G2状況2	大学の後輩(目下)	グループワーク	祖母の死	6
KG3S1	G3状況1	大学の同級生(同等)	グループワーク	祖母の死	5
KG3S2	G3状況2	大学の先輩(目上)	グループワーク	骨折	5
KG4S1	G4状況1	大学の先輩(目上)	グループワーク	祖母の死	4
KG2S2	G4状況2	大学の後輩(目下)	グループワーク	骨折	4

コードの意味：K(昆明中国人学生) G(グループ) S(状況)

哀順変」の意味、「悲しみを抑えて出来事を受け入れる」から考えても、不自然ではない。ただ、これは中国語母語話者によると完全に慣習化された表現とまではいかないという。

【中国語データに含まれる定型のお悔み表現(日本語訳)】

KG1S1 = 昆明中国人学生 下線部 = お悔み表現

- (KG1S1-1) 关于你家中的事，希望老师节哀(ご家族の件について、先生がひどく悲しまないように願っております。)
- (KG1S1-2) 同时也很抱歉听到了关于您那么不幸的消息，还望您节哀顺变(~と同時に(とともに)、お身内においてのあまりにも不幸なお知らせをお聞きして、大変残念に思います。ひどく悲しむことなく、変事(出来事)を受け入れるように願っております。)
- (KG1S1-4) 同时也很抱歉听到了这个不幸的消息，还请您节哀顺变(と同時に、この不幸なお知らせをお聞きして、大変残念に思います。どうぞひどく悲しむことなく、変事

(出来事)を受け入れるようになさってください。)

- (KG1S1-5) 很抱歉听到您这个消息，我感到很难过！生老病死是我们都无法避免的事情，请节哀顺变，(お知らせをお聞きして、とても残念です。大変悲しく感じております。生・老・病・死は誰もが避けられないことですので、どうぞひどく悲しむことなく、変事(出来事)を受け入れるようになさってください。)
- (KG1S1-6) 很抱歉听到您这个消息，我感到很难过！生老病死是我们都无法避免的事情，请节哀顺变，后续的事还需您操劳，还望保重身体！(お知らせをお聞きして、とても残念です。大変悲しく感じております。生・老・病・死は誰もが避けられないことですので、どうぞひどく悲しむことなく、変事(出来事)を受け入れるようになさってください。まだなすべきことが残っていることと思いますが、お身体を大事になさってください。)
- (KG1S1-7) 人生都要经历这一刻，我为您母亲的离去

表16 意味公式の中国語の例と使用状況(日本語訳)

意味公式	例	n=10	%
宛名	山田晴子老师(山田晴子先生)	10	100.0
名乗り	我是陈雨曦(陳雨曦です)	2	20.0
はじめのことば	您好!(こんにちは。)	8	80.0
連絡の感謝	您的邮件我已经看到。(メールを拝見しました。)	5	50.0
お悔やみ表現	同时也很抱歉听到了关于您那么不幸的消息、还望您节哀顺变、(お身内においてのあまりにも不幸なお知らせをお聞きして、 <u>大変残念に</u> 思います。 <u>ひどく悲しむことなく、変事(出来事)を受け入れる</u> ように願っております。)	9	90.0
心身への気遣い	后续的事还需您操劳，还望保重身体!(まだなすべきことが残っていることと思いますが、お身体を大事になさってください。)	4	40.0
助力の申し出	(例なし)	0	0
キャンセルの了承	面谈的事您大可放心，(面谈に関してはご安心ください。)	2	20.0
質問に対する応答	关于毕业论文我这边已经准备得差不多了，(卒業論文についてはすでに殆ど準備ができています。)	10	100.0
改めての約束	什么时候确定好了面谈时间再告知我。(面谈時間が決まりましたら、またお知らせください。)	9	90.0
署名	你的学生：陈雨曦(学生の陳雨曦)	6	60.0

感到悲痛，作为您的学生我祝福您的母亲在天国得到永生和幸福。另外希望老师照顾好自己的身体和家人，节哀顺变（人生において誰もがこのようなことを体験しなければなりません。お母様の逝去にひどく悲しく思います。先生の学生として、お母様が天国で永久に生き永らえることと幸福になることをお祈りします。また、先生も自分のお身体とご家族をいたわり、ひどく悲しむことなく、変事(出来事)を受け入れるように願っております。）

(KG1S1-8) 同时也很抱歉听到了这个不幸的消息，还请你节哀顺变（と同時に、この不幸なお知らせをお聞きして、大変残念に思います。どうぞひどく悲しむことなく、変事(出来事)を受け入れるようになさってください。）

(KG1S1-9) 关于您家里的事我也感到很抱歉，希望你节哀顺变。（ご家族の件について、大変残念に思いますが、先生がひどく悲しむことなく、変事(出来事)を受け入れるように願っております。）

(KG1S1-10) 听到家母去世这个消息我感到万分抱歉，但是希望您能保重身体，节哀顺变。（お母様のご逝去のお知らせをお聞きして、非常に残念に思っておりますが、先生がお身体を大事にし、ひどく悲しむことなく、変事(出来事)を受け入れるように願っております。）

この調査においても、キャンセルの了解には定型表現、「面談日の変更を了解」はやはり見られず、「你的邮件我已经收到」(連絡をいただきました)や、「面谈的事您大可放心，我这边时间很充裕」(面談に関してはご安心ください。私は時間に余裕がありますから。)などで了承を間接的に表していた。さらに、先生の母親の逝去に対し、言葉を尽くしてお悔やみを言っている点も一致していた。ただ、メールの命題部と同情部の順番に関しては、中国語データでは命題部を先に同情部を後にしたケース(6名)の方が同情部を先に述べた(4名)よりも多かった^{註5}。

中国では相手が不幸にあったメールを受け取ったときは、メールの本来の用件よりも、相手の不幸に

対して、言葉を尽くし、同情の気持ちを表現する傾向があることが分かった。

これらの点に関して、中国人日本語学習者のメールは、母国語の干渉を受けている可能性が示唆される。

V. 考察

本研究では、日本人と中国人の学生の日本語で書かれたメールを分析し、メールの相手の身内に不幸があったときにどのような形で同情を表すかを調査したものである。今回使用したシナリオでは、大学の教員の家に不幸があり、学生は面談の予定があったために、その不幸について知ることとなり、返答のメールを書かなければならないという状況であった。その状況下での日本人学生と中国人学生間のメールの文面の相違点を分析した。ここでは、まず初めにメールの文面での文字数の違いを考察し、その後、メールに含まれる内容に関して意味公式を基準に考察したい。

メールの文字数では、圧倒的に中国人学生の書いたメールの方が長く、その理由として、故人および遺族への哀悼の意を示す文の長さの違いが挙げられる。さらに日本人学生のうち約3分の1の学生は、お悔やみの言葉を全く使用せず、用件のみのメールを送っていたため、平均の比較では大きな差となって現れた。しかし、その部分を統計から排除しても、中国人学生が同情部で使用した文字数は有意に多く、中国人学生は弔意を言語化して表すということが傾向として見られた。メールの長さには、中国社会でのフォーマルな場での礼儀などが関わっているとも思われる。筆者の経験で、中国社会で正式なスピーチなどは日本のスピーチに比べ、長さが重要なのだと思われたことがある。実際、中国人学生に聞くと、長さがある程度決められているという。この長さとフォーマリティとの関連については、今後研究していきたいと考える。

お悔やみ表現を使用した日本人学生は基本的に「お悔やみ申し上げます」に代表される定型表現をひとつだけ、そのまま使用していたが、中国人学生は複数の表現を組み合わせて使用していた。定型表現自体は、日本人学生は複数の定型表現を、頻度の上では集中することなく使用していたが、中国人学生は定型表現を複数組み合わせて使用していたばか

りか、メールの相手の教員の身体への配慮の表現も加えていた。このように、メールの相手の身内の不幸という同情を表す状況では、中国人は弔意を表し、随所に気遣いを感じさせるメールを送るが、日本人は同情表現が中国人に比して量的にも質的にも少ないことが分かった。中国人学生が中国語で書いたメールにも配慮の表現が多く、中国人学生のメールに共通している特徴であった。

両者の違いに関しては複数の理由が考えられる。まず、ひとつには、日本の若い学生はお悔やみのメールを書いた経験がないか或いは経験が非常に少ないため、純粹に記述する方法が分からなかった可能性である。つまり、短期大学学生の社会化が十分でなかったということである。しかし、本論では扱わなかったが、別のシナリオにおいて後輩の祖母が亡くなったことに対する返信メールには23名中20名がお悔やみの言葉(非定型も含む)を記していたことを考えると、お悔やみを表現することができないわけではないであろう。同情表現の少なかった理由として、教員が相手であるという要素の関わりも考えられる。たとえば、学生間では複雑な敬語体系に対する意識が低くなるため、気持ちを素直に表しやすかったり、立場が似ているために感情移入しやすかったりして、お悔やみ言語化しているということも考えられる。

また、教員の個人的事情になるべく触れないという配慮が働いた可能性もある。日本社会では学生の立場では、教員のような目上には、あまり個人の事情に立ち入らないように心掛け、あえて相手の不幸について表現しないことが一般的である。教員側も普段は、個人的な事情を詳しく学生に説明することはない。今回は、学生にとって重要な面談をキャンセルするという状況で、教員はやむなく事情を説明する必要が生じたが、学生側は教員の事情に立ち入らないという配慮から、結果として事務的なメールの返答に至ったと考えることもできる。実際、ほぼ同様の他のシナリオ(本研究のうち本論で扱っていないデータ)でメールの相手が先輩、後輩、同等の場合、同情を教員相手より言語化していた。

中国人学生が言葉を尽くして相手との共感意識を示したのは、中国語からの転用とも考えられる。調査③で中国語での同じシナリオ使った調査で得られたデータは、その可能性を示していた。中国語のお悔やみの表現として、メールなどでは「节哀顺变」と

いう相手を慰める表現と「很抱歉」という自分の気持ちを表す表現を盛り込むことが一般的であり、その影響を受けた中国人学生のメールが多かったのである。また、中国社会では身内の不幸に対しては、相手が教員でも、あるいは教員だからこそ言葉を尽くし弔意を表し、相手の心身に対する心配を表現することが適切であるということである。さらに、中国人の学生は、第二言語使用者であるが故に、日本では目上の人に対して敬意を払うのが重要であると見え、このシナリオ(日本人同士の設定)の中で想定できる関係性を想定し、教員に対する最大の敬意を払うために哀悼の辞を書き連ねたとも考えられる。ある意味で、学習者である立場が関与している可能性もある。

沖(2015)⁸⁾によると日本社会は、「相手とある程度の距離を保つことが人間関係の常態であり、一定の距離を保つことが重んじられる」という。さらに「日本では個人と個人の関係性よりは、属する集団における共通した行動様式によって言語行動を含む行動が規定され、それに沿って行動すること、すなわち自分自身の集団における行動をわきまえることが期待される。一方、中国社会においては、個人と個人の間は集団の中の規範によって規定されるのではなく、何らかの状況において一旦関係(グアンシー)を結べば、相手との距離がその関係性のうちに成立し、身分や立場を超えて近くなっていく」と説明されている。この意識、態度が、同情表現の質と量の違いにも影響を及ぼしていると考えられる。日本人の学生は学生と教員という異なるクラスに属する人とのコミュニケーションとして、教員の私生活や個人的な事情に関して言及することは、学生としての立場では適切ではないと考えることも十分あり得ることであり、本研究で使用したシナリオでは、教員側も個人的な状況について学生と共有するということは本来ないことだが、学生にとって重要な面談の約束をキャンセルという状況においてやむなく事実を伝えたという背景がある。そのため、一般的な事例に合わせ、多くの学生がお悔やみ表現を一切使わず用件のみのメールを書いた可能性がある。さらに、お悔やみの言葉も典型的な表現にとどめ、極めて限られた部分にしか個人的な心情を述べないということが説明できる。

別の説明としては、中国の文化社会と日本の文化

社会では身内の死ということについての意識が違うことが考えられる。調査後、一部の中国人学生にインタビューをしたが、その時、「お母さんが亡くなっているのに、論文のことなんてどうでもいいこと」という答えが返ってきた。これは身内の不幸ということが、何よりも優先されるという社会文化であり、身内の不幸を知らせるメールを受け取った場合も同様に、その不幸にあった相手への同情が最も優先されるという意識、態度の表れだと思われる。

対照研究においては相手の社会文化を踏まえるということは大変重要であるが、今研究では中国社会文化、意識態度について言及できるようなデータがないので、これらに関する考察は十分とは言えず、社会言語学的な調査を含め、さらに精査を要する。また、日本人メールのお悔みや相手への心身への気遣いについての量的な少なさは、日本人短大生の社会化が不十分であるからという可能性も捨てきれない。今後年齢層の高い参加を募り同様の調査をすることが必要である。

日本人学生と中国人学生の書いたメールの大きな違いに「了解した」の表現が一つもなかったことが挙げられる。日本人学生の多くは教員のメールの内容を理解した、という意味で「了解した」、「承知した」などの表現を使用していたが、中国人学生の中でこれらの定型表現を使用したものは一人もいなかった。中国語のデータにおいても「了承」の定型文を使用したものはなかった。定型文ではなく「如果您由于家中的一些不可抗力的缘由而要延期，我不会拒绝的。」（そのようなご家庭の避けられない事情で延期するということでしたら、私は拒否できません。）や「面谈的事您大可放心，我这边时间很充裕」（面谈に関しては気にしないでください。私は時間に余裕がありますから。）など了承を間接的に示したのみである。

メールで使用される他の定型表現の使用はいくつか見られたことから、メールで使用されるこの定型表現について使いこなせなかった理由は別にあるかもしれない。ひとつには、日本語で使用される漢字語の意味が中国語では異なることである。もしも指し示す意味が大きく異なる場合は有標化され違いが認識しやすいが、意味の違いが大きくない場合、違いを認識しにくいと考えられる。「了解する」という最も日本人学生が多く使用していた表現の「了解」

の意味が中国語と日本語では大きく異なることが考えられる。中国語の了解(liǎojiě)は、内容を深く理解するという意味で使用され、日本語の「提案を受け入れる」という意味の了解とはニュアンスが異なる。そのため、このようなメールの返答で使われている例に触れた経験があったとしても、単なる了承表現として学習することにはつながらない可能性が指摘できる。

日本語教育の中ではメールの書き方を教えているが、定型表現について教える際には、母語が漢字圏の学生の場合は、用法と意味の違いについて紹介することが重要である。この「了解しました」或いは「承知しました」という表現は、上下関係が明確な場合に目上の人に向かってよく使われる表現として、明示的に教えることが必要であろう。

今回のデータを俯瞰すると、全体としては中国人学生の方が教員の気持ちに寄り添い共感している印象を受ける。日本人学生はいわゆるメールの作法、短く簡潔に要件を伝える、に合ったメールを送っているが、悲しみに暮れている教員への配慮が足りないように感じられる。ポライトネス理論的に解釈すれば、中国人学生は、「積極的な」ポライトネスに十分に配慮した一方、「消極的な」ポライトネスを犠牲にしている。日本人学生は「消極的な」フェイスに配慮したが、「積極的な」フェイスへの配慮を欠いた、ということになる。どちらの行為が対人関係においてダメージが多いだろうか。文化的背景の違う外国人から来た文法的に間違いが多いが、同情心に満ち溢れたメールを受け取った場合、教員の立場では、すでに家庭の事情を開示している関係から、「消極的な」フェイスの侵害とはもはや感じられないのではないかと考えられる。一方、個人の状況を開示してある状況において、それについての言及がない場合、むしろ「積極的な」フェイスが侵害されたと考えるのではないだろうか。ただし、今回のタスクはロールプレイのようにシナリオ中の学生の立場になってメールを書くということだったため、現実の教員との関係性の中では共感を示す表現がさらに多く使われることも考えられる。

個人の行為とコミュニティにおける行動という視点で見た場合、共同体における死の扱いの特殊性を考慮に入れる必要があるのではないか。実際の社会において、人の死は他の事とは異なる特殊な状

況であり、普段の習慣を逸脱して特別な配慮が必要な事柄である。歴史的に考えても、村八分のように、たとえ共同体から排除された人がいたとしても、火事と死亡だけは特別なものとして扱われてきた。情報共有と即時的な連絡方法として定着しているメールだが、相手のプライバシーに関わることに配慮しつつも、最低でも定型表現を利用し簡潔に弔意を表すことがやはり必要ではないかと考えられる。この視点に立つと、日本人学生が弔意を表すことを避けた行為は、やはり社会性の欠如に基づくものである。短大生が書いたメールということで、もう少し上級の学生が調査に参加していたら、違う返答が得られた可能性は排除できない。

VI. おわりに

おわりに、日本語教育へのこの研究の示唆するところを考える。前章に記述したが、日本語教育の中で定型表現について教える際には、母語が漢字圏の学生の場合は、「了解する」にみられるように用法と意味の違いについて紹介することが重要であるということである。

身内の不幸を理由にしたキャンセルのメールに関しては日本人が中国人からのメールを受け取る際には、言葉を尽くされ、同情を表現されているという感があり、したがって中国語の母語の干渉による感情的摩擦は起こりにくいと思われる。むしろ、日本人が中国人の身内の不幸に対して、同情の表現をあまり使わないことの方が問題になりそうである。

謝辞

本研究は多くの方々のご協力で可能になりました。本研究の被検者の皆様、そして被検者の方々を紹介していただき、調査の機会を与えてくださった嶺南師範学院、天卓日本語塾、松本大学の先生方、ここに心より感謝申し上げます。また中国語の翻訳をお手伝いいただき、適切な助言をいただきました信州大学非常勤講師李丹丹氏をはじめ、大阪大学大学院修士生陳雪蓮氏、嶺南師範学院交換留学生の皆様にもここに心より御礼申し上げます。

注

注1 リアリティを出すために、短大の2年生には後輩に対するメールを、短大の1年生には先輩に対するメールを書いてもらった。したがってグループ名とタスクは一部、後述の嶺南師範学院の調査と一致していない。

注2 返信に使ったメディアが携帯メールかEメールで長さや内容に差異が生じる可能性もあったので、本論に先立って、中村・萩原(2020)¹²⁾において、日本人短大生の携帯メールとEメールの長さ、意味公式の違いについて検証した。その結果、携帯メールとEメールという両メディアにおいて、文字数と意味公式の使用頻度には統計的に有意な差がないことが分かった。したがって、本研究では両メディアから得られたサンプルを区別なく扱った。

注3 詳しくは沖(2015)⁸⁾を参照。

注4 本節の執筆にあたっては信州大学非常勤講師の李丹丹氏にご助言をいただいた。氏は「节哀顺变」の意味として、「通常、訃報を接した時や葬式の時に、不幸に遭った遺族にかける。残された遺族を慰める意味を含む。」としたうえで、下記の5つの翻訳を示した。意識5として日本語の「お悔みを申し上げる」、「ご愁傷様」があげられた。本論では氏に従い、訳2を訳として採った。

直訳1：悲しみを抑え、事に従う。(死は自然の摂理であり、仕方のないことですから。(隠れた意味、ひどく悲しまないで、自然に従う)

訳2：ひどく悲しむことなく、出来事を受け入れる。

訳3：ひどく悲しまないようにして変事に処せられたい(辞書により)

訳4：気を落とさず。

意識5：お悔みを申し上げる。ご愁傷様。

中国人学生でこの意味を日本語に直訳したと思われる学生がいた。つまり中国のお悔み表現は日本語のお悔み表現のように原義を失い、ほとんど慣習化しているのにくらべ、ある程度原義を維持していると思われる。

注5 李丹丹氏に本シナリオの状況で用件を先に表現するか、同情表現を先にするかという点をインタビューすると、「自分ならお悔みを先にいう」という答えが返ってきた。もう少し成熟した被検者に調査したら結果が違っていただろうかもしれない。

文献

- 1) Sperber, Dan and Deirdre Wilson, *Relevance: Communication and Cognition* (2nd ed.) , Oxford: Basil Blackwell(1995).
- 2) Brown Penelope and Stephen Levinson, *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge: Cambridge University

- Press(1987).
- 3) Searle, John R, *Speech act: An Essay in the Philosophy of Language*, Cambridge University Press(1969).
 - 4) 山岡政紀, 「第1部配慮表現の原理」『日本語配慮表現の原理と諸相』くろしお出版, pp.19(2019).
 - 5) 山岡政紀・牧原功・小野正樹, 『コミュニケーションと配慮の諸相: 日本語語用論入門』明治書院, p.143(2010).
 - 6) 山岡政紀, 「慣習化されたポライトネスとしての配慮表現の定義」『日本語用論学会第17回大会発表論文集』pp.318(2015).
 - 7) 三宅和子, 「携帯メールにみられる配慮表現」『日本語の配慮表現の多様性』くろしお出版, pp.279-296(2014).
 - 8) 沖裕子・趙華敏, 「日中依頼談話の特徴と日本語教育」『異文化理解と日本語教育』高等教育出版社, pp.107-133(2015).
 - 9) Hagiwara A, Nakamura J, "Cancelling an Appointment in Japanese: How to Mitigate the FTA of Cancellation." *The 40th annual conference of the American Association for Applied Linguistics, Portland, US, March 21*, p.165(2017).
 - 10) ザトラウスキー・ポリー, 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版(1993).
 - 11) カムトーンティップ、タワット, 「日本語での約束をキャンセルするメールの談話構造」『日本語・日本文化研究』25, pp.54-65(2015).
 - 12) 中村純子・萩原明子, 「メディアの違いによるメールの長さと言義公式の差異」『地域総合研究』第21号Part1, pp.77-84(2020).